

頸動脈のエコー検査について

動脈硬化は血管の老化現象(血管年齢)ともいわれ、40歳以上の人のほとんどに多かれ少なかれ見られます。高血圧や高脂血症、糖尿病が何年も続くと、□動脈硬化が進み、血管が詰りやすくなります。動脈硬化によって、次第に血管壁は傷つきやすくなり、やがてそこに血の固まり(血栓)ができます。

高脂血症、高血圧などによる動脈硬化を放置すると、脳や心臓に血液を送る血管が詰り、狭心症や脳梗塞など重大な病気になる可能性があります。

頸動脈のエコー検査は超音波を使い、頸動脈の状態を調べる検査です。

血管の内側に付着したコレステロールなど、血管内部の状態もわかります。

頸動脈を観察して異常が見られれば、全身の動脈に同じような異常があると推定できます。

この頸動脈のエコー検査により、頸動脈動脈硬化の有無や程度を調べ、脳梗塞や心筋梗塞を未然に防ぐことが可能になります。

検査の方法： 専門の臨床検査技師が担当します。

左右の頸部に超音波探触子をあてて観察し記録します。

その際、よく見えるよう皮膚にゼリーを塗布します。

(基本的には、腹部など他の部位のエコー検査と同様です。)

検査時間：

病変の有無などにより検査時間は変わりますが、一般的には15分程度です。

この検査で以下のことがわかります：

- 1)頸動脈の動脈硬化の有無とその程度
- 2)頸動脈壁の肥厚、石灰化、および狭窄や血栓の有無
- 3)脳や心臓など全身の動脈の老化状態の推定
(頸動脈を『全身の血管の窓』として観察する。)

頸動脈のエコーは、全身検査または検診の一部としてきわめて有用な検査です。